

ひろしま 郷土資料館 だより

平成20年(2008)11月

第76号



川瀬巴水の「宮島」

大正・昭和の風景版画家川瀬巴水は旅を愛し、各地をめぐって600点あまりの版画を制作しました。最も多く取り上げられているのは住み慣れた東京の風景で、また富士も色々な地方でたくさん描きましたが、次いで多いのは広島県の「宮島」を取り上げたものです。レゾネ(全作品目録)で確認できる作品は12点あります。「星月夜(宮嶋)」①のように、夜のしじまに沈む鳥居を描いた作品や、明るい日差しの中新緑を背景に、潮の引いた鳥居のそばにたたずむ人物や鹿ものどかな宮島、また朱の鳥居・紺碧の海・白い雪と三色のコントラストが美しい冬の宮島など、巴水の力量が存分に発揮されています。巴水の作品はまず外国で高い評価を受け、北斎・広重とともに日本版画家の3人と呼ばれたのですが、宮島の風景は外国人の心を捉える日本的な美しい色合とモチーフを端的に代表するものであり、また巴水もそのことはよく意識して制作していたと思われます。

「外客の誘致」を目的に設置された鉄道省(後の国鉄)国際観光局は、昭和7年、日本観光を宣伝するためにポスターを一万枚制作しました。これは日本画家野口謙次郎による台紙に、川瀬巴水の版画“The Miyajima Shrine in Snow”(雪の宮島)②を直接貼り付けたぜいたくな仕様のものです。日本を代表する風景として巴水は宮島を選んだのでした。

(前野やよい)



①「星月夜(宮嶋)」

昭和3年の作品。類似の構図で大正10年・昭和22年と制作していますが、本作品はすっきりと清澄な色づかいで夜の静寂を描いています。



②“The Miyajima Shrine in Snow”(雪の宮島)

巴水作品の摺りでは、一作品あたり平均30枚程度の版木が用いられ、その多さが作品の微妙な色合いに深みを与えています。しかし、この作品は一万枚も摺るという通常では考えられない制作でしたので、版木の1組は数枚とし、色板を3組も用意して摺り上げたそうです。

特 別 展

水木しげる 妖怪道 五十三次

【会期】7月19日(土)～8月31日(日)

この夏、郷土資料館に妖怪画が大集合・・・夏休みの特別展では、こども達に大人気の「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげるさんが描いた妖怪画を展示しました。鬼太郎は昔のアニメーションでしたが、最近またテレビ放映が始まったり、実写で映画化されたりと、その人気は衰えることを知りません。

「妖怪道 五十三次」とは、水木さんが広重の描いた「東海道五十三次」をモチーフに、ここを妖怪が旅したら、一体どうなるのだろうか？という好奇心とともに描いたものです。300人(?)をこえる妖怪たちがおどろおどろしい様子で東海道ならぬ「妖怪道」を旅していきます。「東海道五十三次」の構図で描かれているといっても、さすが妖怪たち。自己主張も強く、大いに楽しませてくれました。

資料館で注目したのは、旅する妖怪たちが使っている道具。妖怪も人間も使う道具はそれほど変わらず、そしてこれらの道具たちは資料館で常時展示されているものたちです。

「妖怪道五十三次」の版画と、その

中に描かれている道具をリンクさせ、「道具の使い方」や「道具の歴史」を妖怪たちが紹介してくれました。中には、「妖怪が悪い・・・？」と思わせるような古い道具もあり、こども達の恐怖を誘っていました。

妖怪を通して、環境の変化、道具の変化、昔の道具にこめられた思いや、ものを大事にする「もったいない」という心なども見ていただけたと感じています。



また2階「妖怪むら」では、ゲゲゲの鬼太郎ファミリーの複製原画を展示し、ほんの少しの明かりで観覧していただきました。暗闇はみなさんに多くのイメージを与え、恐怖ではなく好奇

心を持っていただけ空間だったようです。おそろおそろ入ると、「妖怪あかなめ」の絵と、彼がなめた「木桶の風呂」が！ 駕籠の中には浴衣をきた人が！、昔の布団には目玉になる前の「鬼太郎の父さん」が！ 暗闇の中での仕掛けに、こども達の悲鳴があがっていました。こども向けに企画したものでしたが、1階の道具を大人がこどもに話し、2階の妖怪たちをこどもが大人に教えるなど、いいコミュニケーションの場にもなっていました。

この期間中は関連イベントも盛りだくさんで、左官職人さんに来ていただき「ぬりかべ」を塗る体験や、毎日平日に「目玉ごま」、「妖怪まゆ玉人形」などのカンタン工作を行いました。

期間中は、展示だけではなく、妖怪



「ぬりかべ」体験

むらで遊び、カンタン工作を楽しみ、いろいろなメニューを繰り広げた夏休みでした。多くの方に「来場いただき、楽しんでいただきましたことに関係者一同達成感を感じています。」

(小林奈緒美)

教室 事業 等

土曜教室

伝統的な物づくりや昔ながらの遊びを体験する教室。幼児対象のものから大人も参加できるものまで多彩な事業を行いました。

4/19	古代の土器作り
4/26	縄文ストラップ作り
4/29	勾玉作り
5/17	カラフル版画に挑戦！
5/24	どんぐりクッキーを作ろう
5/31	はにわ作り
6/7	手すきはがきで暑中見舞い
6/14	藍でハンカチを染める
6/28	キラキラ万華鏡
7/5	七夕飾り作り
7/20	漆喰ボール作り
7/26	藍染めTシャツ作り
8/3	不思議なあかり〜走馬灯作り
8/9	勾玉作り
8/16	石ころ妖怪アート
8/23	組みひもストラップ
9/13	石臼を使って月見団子作り

平成20年度前半（4月～9月）に実施した事業

企画展

広島の遺跡を掘る

『考古遺物から見る広島』

【会期】4月19日（土）～7月6日（日）

広島市内の遺跡の発掘調査は、（財）広島市文化財団文化財課によって日々行われています。しかし貴重な資料があるにもかかわらず、その出土品は展示機会や場所がなく、ほとんどのものが公開されていません。そこで郷土資料館では文化財課と共催で、昨年に続き古代の歴史や考古資料を紹介する企画展を行いました。

社会科では小学6年生がはじめて日本の歴史を学び始めます。中でも4月、5月ごろは古代の日本について学習する時期で、そのときに、古代の遺物を見学できる機会があるかどうかは、今後の歴史学習の興味付けという観点からも重要な意味があります。

説明パネルやキャプションを小学生が理解できるよう平易な文章とし、古代の遺物だけ展示するのではなく、各時代の歴史背景なども紹介し、現代へとつなげていきました。

期間中は展示関連の教室事業も開催し、土器やはにわを作ったり、勾玉を磨いたりする実体験をおして、子供たちは教科書で学んだ内容を理解し、



かなり興味を示していました。また、毎週日曜日に行う展示ガイドも、「小学校高学年向け」の内容としたところ、日ごろはあまり来館することのない年齢の子供たちが熱心にメモをとりながら聞いている姿がみられました。

子供たちの社会科ばなれ、歴史ばなれを起こさないために、実際の歴史を五感をおして学ぶことは大変重要だと考えています。（小林奈緒美）

特別展

大正・昭和の風景版画家 川瀬巴水展

【会期】4月26日（土）～6月1日（日）

本展は、西日本で本格的に川瀬巴水の作品を紹介する初の展示です。当館にとっても、常設展示室で特別展を行う初の試みとなりました。

川瀬巴水（明治16～昭和32）は、東京に生まれ、日本画家錦木清方入門して、大正7年、版元渡邊庄三郎のもとで版画家としての活動を始めました。今年にはちょうど90年目に当たります。

巴水の版画は、浮世絵のように彫りや摺りを専門の職人に委ねる伝統的な技法で制作されました。旅を愛し「旅情詩人」とも呼ばれた巴水の作品は、戦前より内外で高い評価を得ており、近年ますます人気が高まっています。

本展では、西日本、特に中四国地方を描いた作品を重点的にセレクトし、紹介することに努めました。中でも「宮島」を描いた作品は、今回展示可能なものすべて、前後期で計9点も出品できました。また、郷土資料館で展示を行う以上は美術館とは違うアプローチをということと、巴水が描いた時代に用いられた、その風景の中にも見られる川舟や様々な民具を同時に観賞いただけるような空間を準備しました。ライティングなどに不十分な点もありましたが、他所ではないユニークな展示会場

となったと思います。おかげで多くの方が素晴らしい巴水作品をごらんになり、大盛況でした。



版元の三代目に当たられる渡邊さんは版画や浮世絵専門の「なんでも鑑定士」としてテレビでもおなじみです。

株式会社渡邊木版美術画舗代表取締役渡邊章一郎さんには、初日にご来館いただいた取材にも快く応じていただきました。また、関連事業の講演会「近代日本版画の潮流と渡邊版画店」では、近代日本版画の流れと巴水を世に送り出した渡邊版画店についてのお話を、沢山の図版で紹介しながら分かりやすく解説していただきまして、「さすがなんでも鑑定士！」と熱心な聴講者のみなさんも大変喜ばれていました。最後になりましたが、本展の開催に当たり多大なご尽力をいただきました渡邊章一郎さんおよび株式会社わい・アート代表取締役樋口佐代子さんに感謝の意を表したいと思います。（前野やよい）

トビックス

2年目に入ったボランティア

平成18年度末に広島城、文化財課とともに募集を開始した歴史系3施設合同ボランティア。登録者は段々とふえ、今では約80名となっています。郷土資料館でも日々の事業にご参加いただき、活動も次第に軌道に乗ってきたように思います。特に夏休み、毎日のようにイベントをしていたときには、連日の活躍で、本当に助かりました。

ただ、活動を続けていく中で、課題も見えてきています。ひとつは、80名の登録者数の中でコンスタントに活動に参加しておられる方が限定されていること、また、現在の活動の形態が、当館の事業補助のように固定化されていることです。

もっとボランティアさんが主体的に活動できるようにしていくにはどうすればよいか、結局はそうして活動の幅を広げ、内容を充実させていくことで、魅力が増し、これまで参加されていない方々にも参加していただけるのではないかと、思っていたところ、7月ごろに、あるボランティアさんから「古文書講座をやらしてくれないか」との提案がありました。広島城などが主催して10月4日に開催が予定されていた、「砂持加勢まつり」に向けて機運を盛り上げようと、「砂持加勢図」を



9月23日「古文書講座」の様子

ご自身を講師として読み説く、という内容です。ボランティアさんからの事業提案は初めてのことで、即座に「やりましょう」ということになりました。当方は内容には一切タッチせず、広報や資料印刷のお手伝いをしたぐらいで、ほとんど「丸投げ」のようなスタンスをとりましたが、9月23日の当日は、2時間の持ち時間では足りないくらい熱心に指導され、参加者の方々の反応も上々でした。ボランティアさん自身が企画・実施した初めての活動実績を積んだという点ばかりでなく、広島城との事業協力という点からみても、3施設合同ボランティアとして意義深い活動となったと思います。(大室謙二)

インターンシップ・博物館実習

今年度は、8月初旬に3人のインターンシップ(比治山大学3名)を、下旬に2人の博物館実習生(京都女子大学、高知大学)を受け入れました。

インターンシップ実習は、特別展と連日の教室事業に加え、ナイトミュージアムも実施して、お客様が大勢いらつしやるもつともハードな時期でした。9日間の実習が終わる頃には全員くたくたになっていました。しかし、それぞれの実習生が自分なりに設定した課題を解決しながら日々の業務に当たっていきましたので、充実した実習になったと思います。

博物館実習は、教育普及事業を中心としたカリキュラムを組みました。実



教室「くみひもストラップ作り」を指導する実習生

習終盤に行くくみひもストラップ作りの教室指導を最終課題とし、準備や運営・指導の方法も実習生2人で考えてもらうこととしました。資料整理や写真撮影実習のほか、連日の工作教室の補助などの合間に準備をするのは大変だったと思います。しかし、来館者と直接接しての指導は、ダイレクトに現場での反応を感じることで、得がたい機会になったことでしよう。

その他にも、4大学7学科の105人を見学実習で受け入れました。実習生の皆さんが、当館を通じて博物館のよき理解者となれることを期待しています。(前野やよい)

今年度後半の企画展

企画展

こんぎつねが語る昔のくらし

【会期】9月6日(土)～1月12日(月)

新美南吉の童話「こんぎつね」のストーリーを交えながら、登場するさまざまな昔の道具や情景を再現・展示して紹介します。

企画展

広島市民球場の記憶

【会期】1月24日(土)～3月22日(日)

半世紀の間、カープ・市民とともに感動を演出し、その役割を終える市民球場のあゆみをたどります。

大人向け講座

主に平日(第3金曜日)の、18歳以上を対象とした講座です。大人ならではの手ごたえあるプログラムを用意しました。

- 5/16 古代の技法で
ガラス勾玉を作る!
- 6/20 大人の染色体験
- 9/19 香へのいざない
- 9/23 古文書講座

夏休みカンタン工作

事前申し込みなしで参加できる夏休み中のイベント。特別展との関連で妖怪をテーマにしたからくりおもちゃなどを作り、毎日おおせいの参加者にぎわいました。

- 7/22・23 妖怪まゆ玉人形作り
- 7/24・25 妖怪びつくり箱作り
- 7/29・30 麻布コースター作り
- 7/31 目玉ごま作り
- 8/1
- 8/7・8 ペットボトル竹とんぼ
- 8/12・15 からくりおもちゃ
- 8/19・20 からくりおもちゃ
- 8/21・22 起き上がりこぼし作り

郷土ナイトミュージアム

8月2日(土)、開館時間を延長しナイトミュージアムを開催しました。照明が落とされた館内には、昔の夜の雰囲気があります。おりしも特別展「水木しげる妖怪道五十三次」が開催されており、2階の「妖怪むら」ではボランティアの方の演出によって、いつも以上にこどもたちの悲鳴や歓声が起っていました。

そのほかにも、「ふしぎな科学の実験ショー」(江波山気象館共催)、「ろうそくの下でおはなし会」(まんが図書館共催)、「ナイトミュージック」(安芸区民文化センター共催)といったイベントも行なわれ、多くの方にいつもと味違う郷土資料館を体験していただきました。



ろうそくの下でおはなし会

被爆建物案内

8/5・6

①被爆建物案内 ②宇品港出兵映像の上映 ③戦中戦後に食べられた江波団子の試食会を実施しました。

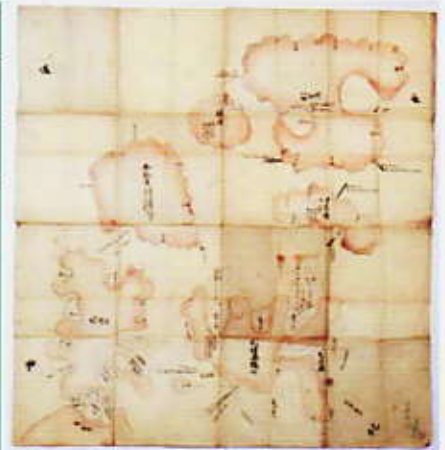
その他の事業・館外活動

- | | | |
|---------------------------------|--|---------------------------------|
| 4/13 博物館見学実習・広島修道大学 | 8/1 治山大学(3名、各9日間) | 7/24 湯来南公民館で夏休み工作教室「カラフル版画を作ろう」 |
| 4/26・27 ころもふれあい体験コーナーでまゆ玉人形づくり | 8/10 インターシップ実習・比 | 7/26・27 安芸区民文化センターで教室「はにわ作り」 |
| 5/3・4・5 フラワーフェスティバルに工作ブース「こいのたき | 8/1 南観音公民館で家庭教育学級 | 親子でコミュニケーション「昔ながらの一銭洋食を作ったべよう」 |
| 5/8 博物館見学実習・県立広島大学 | 8/7 宇品公民館で夏休み工作教室「土器作り」 | 早稲田公民館でサマースクール「藍染めのハンカチ作り」 |
| 6/1 広島城メモリアルデーで工作指導 | 8/8 早稲田公民館でサマースクール「藍染めのハンカチ作り」 | 博物館実習(2名、8月24日まで) |
| 6/8 第13回路面電車まつりで工作指導 | 8/17 博物館実習(2名、8月24日まで) | 早稲田公民館で工作教室「土偶ストラップ作り」 |
| 6/28 博物館見学実習・安田女子大学 | 8/23 エネルギア住宅工房で「この夏 古代人体験!」 | まが玉を作ろう! |
| 6/18 広島市立宇品中学校で出張講話「宇品の歴史」 | 8/28 矢野公民館で夏休みわくわく体験講座④物作りに挑戦!「折り紙で作る花火」 | 宇品公民館で夏休み工作教室「はにわ作り」 |
| 7/1 学芸員見学実習・安田女子大学 | 9/4 宇品小学校PTCでまゆ玉人形作りとからくりおもちゃ作り指導 | ころもふれあい体験コーナーで「からくりのぼり窓作り」 |
| 7/5 博物館見学実習・広島文教女子大学 | 9/20 ころもふれあい体験コーナーで「鹿角ストラップ作り」 | |
| 7/14 坪井公民館で講座「学ぼう! 大学 | | |
| 7/22 カープと市民球場の半世紀 | | |
| 今昔講座「岡峨山と都志見往来日記について」 | | |

寄贈資料(平成20年4月～9月受入分)

貴重な資料をご寄贈くださいましたみなさま、ありがとうございます。

資料内容	件数	寄贈者(敬称略)
絵図「安芸郡之内仁保嶋」①	1	中川 靖郎
陸軍将校士官大礼服一式	1	竹本 道子
昭和産業博覧会記念絵葉書②	6	金原 伸彰
広島名勝絵葉書	18	
写真「元安橋」	3	
写真「松竹キネマ」	1	
写真「饒津神社」	1	
写真「広島県物産陳列館」	1	
写真「路面電車」	2	
写真「広島駅」	8	
被爆写真③	53	
大日本勲業博覧会感謝状	1	(財)広島市農林水産 振興センター
広島市主催昭和産業博覧会感謝状④	1	
佐伯郡水産会第一回水産品評会表彰状	1	
第一回瀬海苔品評会表彰状	1	
氷冷蔵庫⑤	1	山本 光治



①18世紀中頃～19世紀初めの地図
(現南区宇品から向洋付近)



②昭和四年三月二十日～
五月十三日開催

*資料名に付した番号は掲載写真の番号と一致します。



③被爆した山陽記念館
(現頼山陽史跡資料館)



④表彰された瀬海苔



⑤昭和三十年頃まで使用

ひろしま郷土資料館だより 第76号

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目 6-20

TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772

http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/

【発行年月日】

平成20年(2008)11月29日



広島市郷土資料館

〒734-0015 広島市南区宇品御幸二丁目6-20 TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772